

『保育士・幼稚園教諭になってよかった』と 感じた瞬間エピソード

目次

子どもとの関わり編

- 1 笑顔
- 2 絵本の読み聞かせを通して
- 3 先生、食べたよ！
- 4 子どもの笑顔が力に
- 5 最高の笑顔と言葉
- 6 先生できたよ！！
- 7 「せんせい、あのね・・・」
- 8 想い、想われ
- 9 初めてできたね
- 10 魔法の言葉「ありがとう」



©掛川市



掛川市

1 笑顔 (20代)

私が“保育士になってよかったと感じる瞬間”は日常の中にたくさんあります。一つ例を挙げるとすると、朝の出来事です。私は今1歳児の担任をしています。園に出勤し自分のクラスに入ると、わっと一斉に子どもたちが駆け寄ってきて、「せんせい、おはよう！」ととびきりの笑顔で言ってくれるのです。まだうまく言葉をしゃべることが難しい子どもたちもいますので、そんな子たちは言葉が言える子を真似して一生懸命に「おはよう！」と言ってくれたり、ニコニコしながら私の足にぎゅーっと抱きつきにきてくれたりします。「先生が来てくれて嬉しいな」、子どもたちのそんな気持ちを感じることが出来ます。

この朝の一瞬の時間だけでも、「ああ、私、保育士になってよかったな」と感じることが出来るのです。

これだけを聞くと、「ただ笑顔で挨拶をしてくれることがいいのね」そんな風にとらえられてしまうかもしれませんが、そうではありません。もちろん、最初から子どもたちがこんな笑顔で出迎えてくれるわけではなく、子どもたちとの信頼関係を築くまではとても時間がかかりました。「ママがいいー！」と言って大泣きしている子どもを預かる際は私も心苦しく申し訳ない気持ちにもなりました。また、「〇〇先生がいい！」と泣いて訴えられるときは心が折れそうにもなりました。そのような時を乗り越えたからこそ見せてくれる子どもたちの笑顔が私にとってはとても嬉しいのです。

大変なことや苦しいことももちろんたくさんありますが、それよりも子どもたちの何気ない笑顔や喜ぶ姿は、他の物には代えられない素晴らしいものだと感じます。子どもたちの笑顔に自分は支えられています。私にとって保育士という仕事はやめられない、天職だと思っています。



2 絵本の読み聞かせを通して (20代)

子どもたちの笑顔や成長に触れるたび、元気をもらい頑張ろうと思える日々です。入園当初は園での生活に慣れず、不安で泣いてしまう姿がありました。その中で、絵本の読み聞かせはよく見てくれて、園生活に慣れてきた今では子どもたちの楽しみのひとつです。

0歳児クラスでの読み聞かせですが、読み始めるとみんな絵本を見て、真剣にお話を聞いています。読む回数を重ねると子どもたちの反応も変わっていき、毎回新たな発見もあり楽しいです。表情が硬く、笑顔があまり見られなかった子が、絵本の読み聞かせを見て、声を上げて喜んでくれたことがとても嬉しくて、もっと絵本をたくさん読んであげたいと思いました。子どもたちを思いながら絵本を選ぶことも楽しいです。

3 先生、食べたよ！ (30代)

私の年少児のクラスには、給食が全く食べられない子がいました。どうしたら食べてみようという気持ちになるか、試行錯誤しながら関わるようにしてきた日々の中で、人参一切れを口に入れられた時、「あっ、食べてくれた！」と感動しました。その後、自分から食べてみようとして心が動いていく姿を見た瞬間や、保護者からも家でも食べられるものが増えてきていることを聞いて、いろいろなことを考えてやってきたことが積み重なったんだと嬉しく思い、その子と向き合うことを大切にできてよかったと思います。



4 子どもの笑顔が力に (40代)

私が保育士1年目に年少児を受け持った時のことです。まだ子どもも私も緊張していた4月、椅子に座ったまま動かず、遊びに誘うと首を横に振る表情の硬い女の子がいました。初めて家の方と離れて過ごす女の子の気持ちと、初めて現場に立ち戸惑う私の気持ちが重なり、咄嗟に「おいで」と両手を広げてみると、頷いてスッと飛び込んできてくれました。その時にしがみついてきた小さな手と温かさを今でも忘れません。思わずぎゅっと抱きしめ「お母さんと一緒にいたかったね。頑張ってたね。」と声を掛けると、大きく頷き表情が和らいでくるのがわかりました。徐々に遊べるようになり、笑顔を見せてくれたときには、嬉しくて可愛い笑顔に癒やされました。彼女の気持ちに寄り添えた喜びは、今でも鮮明に覚えています。そして、子どもの笑顔は私の自信にも繋がっています。

現在は乳児の担任をしていますが、“昨日できなかったことが今日できるようになった”という日々の成長を目の当たりにすることができ、仲間の保育士や保護者と一緒に喜び合えることに、保育士としての充実感を味わっています。

運動会や発表会などの大きな行事から成長や大きな感動を子どもたちからもらっていますが、やはり日々の生活の中にも楽しさや喜びがあり、やりがいのある仕事だと思います。保育士を志している方、興味がある方、子どもが好きな方、是非一緒に働きませんか？掛川でお待ちしています！



5 最高の笑顔と言葉 (40代)

子どもたちが楽しく過ごせるような遊びや環境は何かと日々考え保育をしています。そんな中、「今日はいい日だったな。」「毎日楽しいことがある!」「今日は最高だったな!」という声が聞かれた時、「この子たちと気持ちが通じ合った。」と楽しさを共有できたことに喜びを感じます。また、初めてできたことに出会える瞬間があります。今まで、縄跳びや鉄棒など繰り返し頑張ってきた姿を応援してきたことができた時の子どもの笑顔や喜ぶ場面は最高です。そんな瞬間がたくさん味わえる、やりがいのある仕事です。

6 先生できたよ!! (30代)

運動遊びが苦手なAさん。クラスで一本下駄への挑戦を頑張っていた頃、やってみようと意欲的に頑張る子どもたちの中で、なかなか自分から取り組めないAさんの姿がありました。「先生と一緒にやってみよう。」と誘い掛け、まずは一緒にやってみることからはじめてみました。そして、一步踏み出す度に「すごいね!」「できてるよ!」の言葉を掛けると、不安げだった表情がどんどんやる気いっぱい表情に。そして、転んでしまっても「もう一回!」と頑張る姿に変わっていきました。最終的に一人でできるようになった時には「先生見て!!」と満面の笑み。他の先生にも、できるようになったことを嬉しそうに披露していました。子どもたちの“できた”の瞬間に立ち会えること、そしてそれが子どもたちの自信に繋がっていく姿を感じることができると「教師になって良かった。」と感じます。



7 「せんせい、あのね・・・」 (30代)

夏休みも明けた2学期のある日のこと。いつものように元気に登園してくる子どもたちを受け入れていた時の出来事です。「おはよう!」とA君に向けてあいさつをすると「せんせい、あのね・・・。」と照れながら話し始めてくれました。

「なあに?」と目を合わせながら聞いてみると、「Aのゆめにね、〇〇せんせいが出てきてね、〇〇せんせい、ゆめでもわらってたんだよ。それでね、いっしょにようちえんであそんだの!」「えっそうなの?先生が夢に出てきたの?」と聞き返すと嬉しそうに「うん!」と答え、朝の支度を始めました。

帰りにお迎えに来たA君のお母さんに聞いてみたら「うちでも朝、起きたらそうやって言ってたんです。」と笑顔で教えてくれました。私は恥ずかしくて思わず「私が夢に出てきて、寝ている時にうなされていませんか?」なんて聞いてしまいました。

またある日の帰りのひとときには・・・

「今日は金曜日だから、明日から2回お休みになるよ。上靴持って帰ろうね。」とカレンダーをめくりながら話をしていると、

「えーっ!!」「あしたもようちえんがいいよね～」と友達と顔を見合わせながら言っていた子ども達の声がとても嬉しくて、思わず「そうだね～」と笑ってしまった出来事でした。

私自身、5月から育児休暇明けで復帰をしました。3人の母として仕事を続けようか子育てに専念しようか、正直悩み・・・でも子育ての経験が必ず保護者支援や幼児理解に役に立つはず!と心に決めて復帰したにも関わらず、久しぶりの仕事とコロナに配慮しながらの保育。モヤモヤしている気持ちも心もどこかにあったのですが、やはり大好きな保育、教育の仕事に戻ってこられてよかったと感じた今回の2つの出来事。そう思わせてくれた子ども達に感謝して、今日も笑顔で保育を頑張っています。



8 想い、想われ (30代)

今から 16 年前、私は小さい頃からの憧れであった幼稚園の先生になりました。保育の中で特に楽しみなことは、子どもたちと会話をしたり、眩きを聞いたりすることです。みんなで同じ物を見ても一人一人違う思いをもち、表現の仕方も異なり、会話をする中でいろいろな考えに触れることができます。大人にとっては当たり前であることにも、すごく驚いたり大発見をしたように伝えに來たりします。思わずクスクスと笑ってしまう微笑ましい言い間違いもあります。いくつか印象に残っている会話があるのですが、その中で自分が仕事を続けるきっかけになった出来事をご紹介します。

園外保育に出掛けた時のことです。先頭を歩いていた私は、近くを歩いていた女の子といつものように楽しく会話をしながら歩いていました。車が來ると危ないので白線の内側を歩くように伝えながら、私は車道側を歩いていました。女の子が急に『先生、そこじゃ轢かれちゃうよ!』『先生が轢かれちゃったら涙が出ちゃうから、もっとこっちに来て!』と、すごく心配そうな声で言いました。『先生は大丈夫だよ。』と伝えると、『絶対気をつけてね!』と念押しされました。何気ないやり取りでしたが、私の心はすごく温かくなりました。教師は教える人、与える人、子どもを想う人…そんな風に考えていましたが、教師も教えられ、与えられ、想われ…互いに成長するのかなとその時感じました。新任で余裕もなく、自分はこの仕事が向いていないのではないかと悩むことも多かった時期に、この女の子の優しい想いと言葉に私は救われました。幼稚園の先生ってこんな風に子どもに想ってもらえるのだと、幼稚園教諭になってよかった、苦しい時も頑張ってみようと思った出来事でした。



9 初めてできたね (20代)

4歳児担任の年の運動会の練習中、鉄棒が怖くて出来ないと泣いてしまうAちゃん。みんなが前回りをする中でできないの一点張り。運動会まで約1ヶ月。まずは触るところから始めてみようと誘いかけ、鉄棒に触れることに慣れていった。本人のペースに合わせて、3秒触ってみよう、5秒触ってみよう、とスモールステップで始めた。鉄棒に触れるようになり、小さな出来たも一緒に喜び過ごす中で少しずつAちゃんも「鉄棒触れるよ」「ちょっと怖くなくなったよ」など鉄棒に親しむ姿が見られた。毎日少しずつ練習し、その日のできた事を送迎時に保護者にも話し喜びを共有してきた。運動会まで毎日練習し、運動会前日保育士の補助ありで前回りができるようになった。Aちゃんとできた事を大喜びした。「明日の本番も先生が支えるから一緒にやってみようね!」と声をかけ「うん!」と嬉しそうなAちゃん。運動会当日、順番が回ってきたAちゃん。平均台などの科目をクリアし鉄棒まで走ってきた。私も支えるぞ!と意気込んでいたが、Aちゃんは自信に満ちた表情で走ってきてくるっと一人で前回りを成功させた。その後保護者とAちゃんとともに喜び感動した事を今でも鮮明に覚えている。その際「先生がずっと付き合ってくれたからできたと思います」と言われ、一人ひとりの姿に向き合ってきて一緒に悔しがったり、喜んだりできてよかったなと思った。初めてのことに中々自ら取り組めないAちゃんだったが、それ以降はその成功体験が自信になったようで様々な事に積極的に取り組む姿が見られた。その子が卒園するときにも保護者の方から、あの時の経験が自信になった、先生が担任でよかったと言って貰えて、自分が向き合った時間はとても大切だったんだなと思え、保育士をやっていてよかったと思えた。それと同時に、今後もたくさん子どもたち保護者の方たちと、たくさんの感情、経験を共有していきたいと思えた。



10 魔法の言葉「ありがとう」 (40代)

コロナ禍ではありますが、保育園にはたくさんの子どもの笑顔があふれています。私たち保育士は子ども達がいつも通りの生活が送れるように心掛けて仕事をしています。

そんな中、子ども達の優しさに触れる出来事がありました。

幼児クラスのトイレ掃除をしている時のことです。

「せんせい、ありがとう。」五歳児の男の子でした。

「いつもきれいにしてくれてありがとう。」今度は五歳児の女の子でした。私は自然に感謝の気持ちを伝えてくる子ども達に嬉しくなり

「どういたしまして。」と、満面の笑みで喜びを伝えました。すると、トイレに入ってくるどの子どもも「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてくるようになりました。次の日も次の日も、幸せの連鎖は今もずっと続いています。いつの間にか、五歳児から四歳児へと子ども達全体に優しさが広がっています。

「ありがとう」は魔法の言葉です。感謝の言葉のやりとりが私の心を温めてくれました。些細な事でも、気持ちを言葉にして伝える大切さを子ども達から教わりました。少し面倒だったトイレ掃除は、大好きな仕事の一つになりました。

